

「タイの医療大麻合法化について」

辻本 浩一郎

「がん細胞の増殖スピードを落とし、時には増殖をとめる」、「アルツハイマーの原因となりうる物質の合成を遅らせる」、「眼圧の高まりを減少させる」、「関節リウマチの痛みや不快感をやわらげる」、「てんかん発作をコントロールできる」、「パーキンソン病の症状のひとつの体の痛みと震えを減少させる」、「不安をやわらげ、鎮痛剤では緩和できない痛みを緩和させる」、「不眠症を改善させる」。そんな効果のある薬草がこの世にあったとしたら、みなさんは利用しますか。みなさんの大切な人が、先にあげたような症状で苦しんでいたらどうでしょう。この薬草を試したいと思いませんか。

＜医療大麻の合法化＞

タイでは2018年12月に医療大麻の使用が合法化され、アジアでも希少な医療大麻合法国として注目を集めました。2020年にはじめに大麻が禁止薬物リストから除外され、特別に許可された研究所での栽培や研究がスタートしました。2020年8月には民間で医療大麻の栽培および認可を受けた医療機関、研究所への販売が許可され、手続きを経て認可を受ければ、家庭でも6株まで大麻を栽培することが可能になりました。あまり手を掛けなくても大きく育つ大麻は、農村地域の大きな収入源になり得ると期待されています。日本でも戦前は痛みや疲れをやわらげるものとして利用されていた記録がありますが、タイも同様に昔から伝統医療で用いられてきた歴史があります。認可を受けた診療所やクリニックの開設が相次ぎ、多くの患者が訪れている現状は、医療大麻への期待の大きさの現れではないでしょうか。

＜広範囲な活用分野＞

大麻メディカルツーリズムも合法化されたことにより、タイ政府としては、旅行業界や農業面での経済活動の活発化も当然視野に入れているでしょう。また、大麻はてっぺんから根っこまで利用できる薬草です。医療に限らず医療品や化粧品、ヘンプ製品（繊維）などの分野への利用も期待できます。大麻の栽培、特定分野への商業利用が許可されれば、幅広くその恩恵を受けることになるかと予想されます。大麻という古くからある薬草が持つ

ビジネスチャンスは、私たちの想像をはるかに超えるものになるかもしれません。

＜料理・お菓子・化粧品が話題＞

2021年2月11日、プリラム県にあるパノンマライ村の10世帯へ、保健省のアヌティン大臣が大麻の苗木を手渡し、農家における栽培のモデルケースとなるプロジェクトがスタートしました。また、プーチンブリ県のチャオプラヤ・アパイブベート病院が運営するスパでは、大麻の葉を使った料理を開発しニュースになりました。料理には、日本を含む多くの国で規制対象の精神活性化作用のあるテトラヒドロカンナビノール（THC）をあらかじめ除外したものを使用しています。



【大麻の葉を確認する大臣】
(出典：teroasia)



【スパの開発メニュー】
(出典：The Nation Thailand)

このニュースのインパクトは大変大きいものでしたが、その波紋の広がりには多方面へと急速に広まる気配があります。大麻料理の次に話題をさらったのは、タイの伝統お菓子に大麻を混ぜ込んだ

カノムクロック、パンダン風味のココナッツパンケーキ。そして、タイのいたるところで医療大麻を広く知ってもらおうと「大麻フェア」が開催され、大麻を使った料理やお菓子、健康効果が期待されるカンナビジオール（CBD）を含むバーム（軟膏）などの医療品や化粧品を試そうと多くの人が訪れています。医療大麻の合法化の先陣を切ったタイですが、現在でも嗜好品として的大麻は違法であり、所持だけでも重罪です。タイにおける医療大麻をめぐる今後の動きを見守っていきたいと思います。